

# 尾崎未空

# デュオリサイタル

# 鈴木舞

大好評！  
鈴木舞 & 尾崎未空による  
北欧の巨匠シリーズ、最終章！

美しくも力強く、叙情的

北欧の巨匠たち

Vol.3



©D.König

©Yukiko Shibuya

尾崎 未空 (Misora OZAKI) Piano

千葉県出身。  
12歳でポーランド・クラクフ室内管弦楽団とサン＝サーンスのピアノ協奏曲第2番を演奏し、オーケストラと初共演。翌年にめぐろパーシモンホールにて初リサイタルを開催して以来、国内外で数多くの演奏会に出演する。  
これまでに、リトアニア国立交響楽団、エストニア国立交響楽団、ミネソタ管弦楽団、ポーランド・クラクフ室内管弦楽団、ポーランド・シレジア管弦楽団、新日本フィル、日本フィル、東京交響楽団、東京フィル、大阪フィル等数多くのオーケストラと共演。またドイツ、オーストリア、イギリス、オランダ、ポーランド、ノルウェーなどでリサイタル開催やコンサート出演を重ねる。  
2016年第40回ビテナピアノコンペティション特級グランプリ、及び文部科学大臣賞受賞。  
2019年第15回 MozARTe international piano competition (ドイツ・アーヘン) で第1位及び聴衆賞を受賞。2021年第4回タリン国際ピアノコンクール (エストニア) で第3位、及び ENSO (エストニア国立交響楽団) 賞受賞。  
ピアノをアンティ・シーララ氏、江口文子氏に、フォルテピアノをクリスティーネ・ショルンスハイム氏に師事。  
2022年にはヘンレ出版社主催による、マレイ・ペライア氏のマスタークラスに参加、同年12月には同出版社オフィスにてサロンコンサートに招かれ、バッハの『ゴルトベルク変奏曲』を演奏した。  
現在ミュンヘン在住。

<プログラム>

グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ♭短調 Op.45  
シベリウス：5つの小品 Op.81  
ラウタヴァーラ：ノクターンとダンス  
シベリウス：5つの小品「樹木の組曲」Op.75 より  
第5曲《モミの木》(ピアノソロ)  
他

\*プログラム等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

鈴木 舞 (Mai SUZUKI) Violin

東京藝術大学卒業後、ローザンス、ザルツブルク、ミュンヘンで学び、ディプロマとドイツ国家演奏家資格を取得。リストとして欧州、中央・東アジア、南米でツアーを行い、世界各地でリサイタルやオーケストラに招かれる。  
国内では、宮内庁主催皇居桃華楽堂での御前演奏会出演やシャネル・ビッグマリオン・デイズ・アーティスト選出のほか、サントリーホール、王子ホール等主要ホールに出演。これまでに読売日響、東響、フィンランド・クオビオ響、ドイツ・ホフ響、チェコ・モラヴィアフィル、スイス・ローザンス室内管などと協奏曲を共演している。  
チャイコフスキー国際 (ロシア) 最年少セミファイナリスト、アンリ・マルトール国際 (ドイツ) ファイナリスト、ヴァーツラフ・フムル国際 (クロアチア) とオルフェウス室内楽 (スイス) で優勝、スピヴァコフ国際 (ロシア) 第2位。  
録音は、東響と共演したペートーヴェン《ヴァイオリン協奏曲》マスネ《タイスの瞑想曲》が日経「モーニング・イン・クラシックス」に収録された他、デビューCD [Mai Favorite]、ピアニスト福原彰美氏との Duo レ・ゼールで『翼』をリリース。  
使用楽器は、株式会社 atsumari より貸与されている1682年製ニコロ・アマティ "Grand Amati"。

2026年  
3月13日 (金)

開場 18:30 / 開演 19:00

入場料：会員4,500円 (座席指定可) /

一般5,000円 / 学生2,500円 (全席自由席)

公式予約フォーム



# 鈴木舞&尾崎未空デュオリサイタル

2026年3月13日(金) 開場 18:30/開演 19:00

入場料: 会員4,500円(座席指定可)/一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

北欧の  
巨匠たち

Vol.3

## 美しくも力強く、叙情的—— 大好評! 鈴木舞&尾崎未空による北欧の巨匠シリーズ — 最終章 —



Johan Julius Christian Sibelius

クラシック音楽は、国や時代、精神性によってさまざまな表情を見せる。  
しかし、“北欧の音楽”に出会う機会は、決して多くはない。

北欧の作曲家といえば、ノルウェーのグリーグ(1843-1907)、フィンランドのシベリウス(1865-1957)という二大巨匠はまず外せないだろう。

その音楽には、自然の厳しさと静けさの中で育まれた、独自の民族性や郷土愛が力強く息づいている。

一見控えめで朴訥とすら感じられるその音には、耳を澄ませると確かな熱や息づかいが宿っていることに気づかされる。

今回メインで取り上げるグリーグの《ヴァイオリン・ソナタ第3番 ハ短調》は、劇的な緊張感と深い祈りを思わせる静寂が交差する、北欧ロマン派の傑作である。

静けさの中に燃えるような情熱——それこそがこの作品の本質だろうと思わせるほど、聴き終えたあとには胸が熱くなる。

シベリウスの《5つの小品 Op.81》、そして《樹木の組曲》より《モミの木》では、壮大な交響曲とは異なる、親密で詩情に満ちた世界が広がる。

短い曲の中に、北欧の森を歩くときのような静寂と、凍てつく空気 of 透明感が息づいている。

さらに、現代フィンランドを代表するラウタヴァーラ(1928-2016)の《ノクターンとダンス》をセレクトするあたりは、現代作品が得意なこのデュオならではのだろう。

夜の気配を纏うノクターンと、神秘的な躍動のダンス。

北欧音楽の精神が、時代を超えてどのように受け継がれてきたのかを辿ることができる。

この対比は、北欧音楽の本質に触れる貴重な体験となるはずだ。

留学先ミュンヘンで研鑽し合った鈴木舞氏と尾崎未空氏。

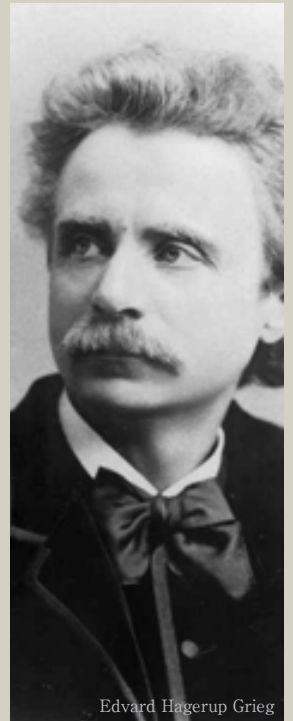
どんな作品にも既定観念に縛られず真摯に向き合い、全身全霊で音楽を届けようとする姿勢には、毎回圧倒される。

本シリーズが3回目を迎えるのは、多くの人がこの音楽を求めている証だろう。

“北欧の美しく、力強く、そして静けさに秘めたロマンと叙情性”。

その核心へ——ふたりの音楽が、いよいよ深く踏み込む。

最終章にふさわしい、特別な一夜となるだろう。



Edvard Hagerup Grieg



123  
Shibuya Mitake Salon (vol.190)

(渋谷美竹サロン)



大ホールのプラチナ席をしのぐ  
生演奏の醍醐味、  
一期一会で味わう圧倒的な臨在感。

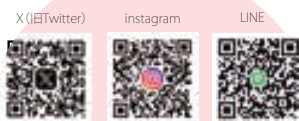
誕生。  
クラシック音楽サロン、  
宮益坂、  
渋谷駅 徒歩2分

サロン・メンバーズ  
入会の詳細はこちら  
(一時停止中)



日本のトップクラスの演奏家たちが、  
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

渋谷美竹サロン(美竹清花さん)が追求する  
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、  
三位一体の努力と対話から生まれます。



●お問い合わせ

株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (月・金 10:30-17:00)

070-2168-8484 (繋がりにくい場合)

Fax 03(3409)0188



公式Webサイト